

IV-229

シンボリックな景観要素と構図の評価に関する一考察

㈱福山コンサルタント 正会員 石田 健
同 上 正会員 田中 秀昭

はじめに

あるシンボリックな要素を中心に形成される景観の評価は、その要素の形態上の諸元とともに、その要素を含む全体の構図の如何に左右される。

本論はシンボリックな施設の例として鉄道駅を取り上げ、遠近の構図と評価の関係、駅単体としての評価と全体構図の評価との関係などの分析を通じて、景観構成要素としての影響度、位置付けを明らかにし空間的な広がりの中での景観計画のあり方について考察を加えたものである。

1. 分析フローと基本的な考え方

分析フローを図-1に示す。景観の構図は基本的にアングルと遠近によって決定されるが、本論では遠近に着目して構図を設定しアンケート調査の実施により分析を行った。

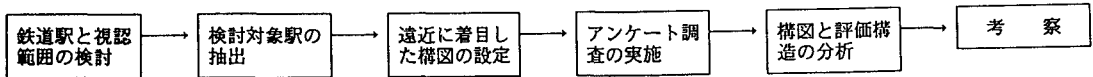


図-1 分析フロー

2. 鉄道駅と視認範囲

九州・山口の人口10万人以上の21都市の中心駅について、駅舎を正面から視認可能な距離を測定してみると表-1のような分布となっていた。視認距離には、かなりの差があり、景観要素としての鉄道駅の位置付けは都市によって多様であることをうかがわせる。平均視認距離はおおむね300～400mの範囲である。

表-1 視認距離の分布

視認距離 ランク	200m 未満	200～ 300m	300～ 400m	400～ 500m	500～ 600m	600m ～
数	3	5	5	2	2	5

注) 九州・山口の人口10万人以上の都市の中心駅

3. アンケート調査の実施

JRの博多、佐賀、山口の3駅を取り上げて、駅舎正面にアプローチする街路上で駅舎から300mを最遠点、50mを最近傍点として、この間50mピッチで歩行者の視点から6つの構図を設定し、写真撮影を行いアンケート調査を実施した。

アンケートの項目	回答方法
構図別の全体評価	6つの構図について順位付け
構図別駅舎の単独評価	同 上
構図別要因の評価 ・ 構図における駅舎の位置 ・ 色彩構成 ・ 自然要素と人工要素のバランス	6つの構図毎に3要因それぞれについて、「非常に良い」から「悪い」の5段階評価

4. 構図と評価構造の分析

各駅の距離別景観評価点と要因評価点を表-2に示し、構図別全体評価パターンを図-2に示す。

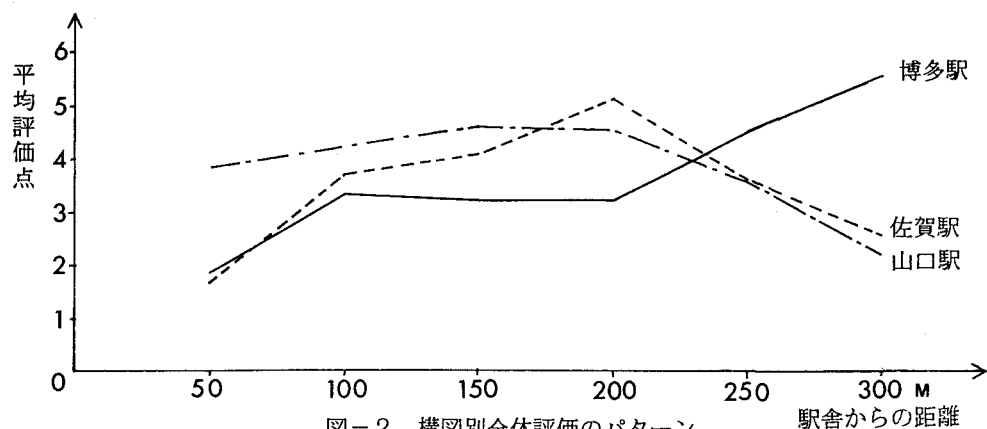


図-2 構図別全体評価のパターン

表-2 構図と評価構造総括表

項 目		駅舎からの 距離(m)	50	100	150	200	250	300
博 多 駅	景観評価点	全体の構図 (分散)	1.90 (2.09)	3.33 (1.82)	3.27 (1.13)	3.27 (1.25)	4.50 (1.18)	5.57 (0.98)
		駅単体の構造	2.57	4.47	4.27	3.24	3.77	2.90
	要因評価点	駅位置	-0.90	0.07	-0.13	-0.15	-0.07	0.03
		色彩構成	-0.83	-0.10	-0.30	0.40	0.37	0.80
		自然要素と人口要素のバランス	-1.27	-0.23	-0.07	0.30	0.23	0.67
佐 賀 駅	景観評価点	全体の構図 (分散)	1.73 (1.73)	3.73 (0.93)	4.10 (2.49)	5.13 (1.05)	3.70 (2.34)	2.60 (1.91)
		駅単体の構造	2.37	4.13	4.37	5.13	3.00	2.00
	要因評価点	駅位置	-0.47	0.37	0.47	0.53	0.07	-0.40
		色彩構成	-0.43	0.03	0.07	0.57	-0.07	-0.10
		自然要素と人口要素のバランス	-0.37	0.27	0.13	0.33	0.00	-0.47
山 口 駅	景観評価点	全体の構図 (分散)	3.87 (3.32)	4.25 (1.43)	4.60 (1.91)	4.57 (1.18)	3.67 (1.49)	2.27 (2.00)
		駅単体の構造	4.33	4.75	4.93	4.03	2.70	1.43
	要因評価点	駅位置	0.53	0.40	0.87	0.50	0.30	-0.17
		色彩構成	0.37	0.25	0.53	0.63	0.50	-0.23
		自然要素と人口要素のバランス	0.66	0.55	0.62	0.62	0.59	-0.03

5. 考察

- ・全体構図の評価は、明確に遠近によって変化する傾向にあることがわかった。
- ・遠近の概念を導入して、駅舎単体と全体構図の評価を比べてみると、評価の最高点が一致していない駅があり、全体構図の中での単体としての設計のあり方と構図の連続的な調和という点で検討の余地がありそうである。
- ・遠近に着目して取り上げた要因の評価と構図の全体評価とはほぼ一致しており、遠近の連続的な景観イメージの向上を図る際に、これらの要因に着目することによって改善の方向が得られるのではないかと考えている。